

「留用」についての 考察と体験

1945年8月以降、数万人にも上る人が「留用日本人」として中国に留め置かれました。「留用」とは「一定期間留めて任用する」という意味の中国語です。

「留用日本人」とその家族は中国の国家建設に協力させられました。1953年に帰国できるまでの体験と考察をお話し、現在も昆布取引など日中間の貿易業務に従事する一方、日中友好運動を継続していることを お伝えしたいと思います。

話題提供者

新宅 久夫 氏

関東日中平和友好会
(留用体験者で組織された会)
会長



話題提供者プロフィール

しんたく ひさお

新宅 久夫 氏

関東日中平和友好会
(留用体験者で組織された会)
会長

1935年中国長春に生まれる。
1946年8月日本敗戦をハルビン市で迎えた。
父が中国側の要請で、医療従事者として残留、一家は国共内戦に巻き込まれ、8年間中国各地を転々とした。
1953年6月に帰国。60年間、日中貿易に従事し現在も継続中。

2025年 1月 11日 (土)
14:00-16:00

- 会場 〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-500
大阪駅前第2ビル5階 ☎06-6345-5000
大阪市立生涯学習センター
大阪駅前第2ビル5階 第4研修室
- 参加費 一般 2,000円 / 学生 500円
- 定員 36名
- 申込方法 受付事務局までメールでご連絡ください
✉ sec@kajinken.jp

